

八幡神社

旧亀ヶ原村 村社

鎮座地 館山市亀ヶ原字蔵敷五三
 祭神 菅田別命(応神天皇)
 例祭日 七月十五日「小祭」 十月十日「大祭」
 鳥居 明神鳥居

由緒 創建は、室町時代の
 文明年間(一四六九)
 (一四八七)と伝えられています。戦国時
 代、里見氏の信仰を集め、元和二年(一
 六一六)には徳川幕府より社領二石が
 認められました。また、元和六年(一六
 二〇)に当社が再建されたことを記す
 古い棟札が残されています。

自慢の神輿

昭和三十年代まで、鶴谷八幡宮祭礼の渡御において莫越山神社の神輿を、府中台芝から鶴谷八幡宮まで亀ヶ原青年団で担いでいました。還御においては亀ヶ原川間集会所までを亀ヶ原青年団、その後を莫越山神社の氏子が担いでいました。こうした信頼関係の中、莫越山神社の神輿が新調された際、旧神輿が亀ヶ原地区に寄進され現在に至っています。

平成十四年に修復された神輿は、野筋に置かれた龍の彫刻や台輪の螺細細工がひと際目を引く、黒と朱に塗られた美しい神輿です。



自慢の祭

昔は七月十五日は「小祭」として自然災害や悪疫退散を祈願する神輿祭を、十月十日には五穀豊穡を祝う屋台祭の「大祭」が執り行われていましたが、近年では十月の第二日曜日に屋台祭りを執り行っています。

今では見かけなくなりましたが、神輿祭屋台祭に関わらず休憩の際には「佐渡おけさ」「大漁節」「炭坑節」「磯節」などが盛



亀甲を模した半纏

んに踊られていました。亀の甲を模した独特な意匠の祭礼半纏は、昔から一度もかわることなく現代に引き継がれています。

亀ヶ原地区では、老若男女お祭りに関わる人々を総称して「亀楽連」と呼んでいます。「亀楽連」では昭和五十四年に毎月二十日に太鼓の練習を行う「廿日会」ができて、平成十二年十二月には「亀ヶ原の伝統行事すべてを継承していこう」と「亀楽連保存会」が発足し、これを機会に五日と二十日の



亀楽連保存会による太鼓の練習風景



このようにいろんな場面で地区の人々が一つになり、地域の維持と活性のため常に努力している姿に、とても感動させられます。大太鼓のバチに巻かれた三色の布が、亀甲模様の半纏と一体になって舞い踊る、亀楽連による御囃子が自慢の祭です。



- 神社名：八幡神社 ● 屋根：方形屋根普及一直線型 ● 葎手：普及型
- 造り：漆塗り ● 露盤：樹型 ● 胴の作り：二重勾欄 ● 樹組：五行三手
- 扉：四方扉 ● 鳥居：明神鳥居 ● 台輪：普及型 ● 台輪寸法：三尺三寸
- 修復年：平成十四年六月

近良画



自慢の屋台曳き直し

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献・史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましてご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。